

風呂

フォト劇場 (45)

写真が生まれるものがたり

五右衛門の湯気に息巻く昇り竜いま立ちのぼる渡
世人の背な
斎藤嶺也

六十年前、山の造材飯場で飯炊きをしていました。馬道まで人力で丸太を引き出す藪鴉の輩がいました。何人かは入れ墨をしており、渡りの仕事師です。風呂場での緋色の肌に浮きあがる彫物はそれは美しいものでした。

夕食の準備を終えていそいそと湯に入るときがわ
がパラダイス
村田淳子

温泉街に育った。湯に浸ることはレジャーでもあった。夏は三十六度、冬は四十一度の湯に毎日一時間は入っている。好きな入浴剤を入れてポーとするのは最高のリラックスタイム。洗うのは全身でほんの二、三分だ。



写真・木畑紀子

湯浴みしてべそをかきかき十までをかぞへしをさ
なはもうねむり姫
中村 京

少女期、祖母の家に泊まるのが楽しみだった。
そう広くない檜風呂に、従姉妹五人と一緒に
入るのである。楽しくて話が弾み、時間など
気にしなかった。仕舞湯に入る伯母は、毎々
日付が変わっていたそうだ。

お湯殿にほうたる放ち若き母われを打ちつつ洗い
たまいき
菊山正史

新築の我が家に来た不動産会社の友が、風呂
の縁が高いと言った。十数年経ちそのことが
よく分かる。高齢化で縁を越えるのが難しく
なった。良い家を持つには、三軒建てると言
った人があるが、もう資力が無い。